

第3次石垣市地域福祉計画・地域福祉活動計画  
令和5年度及び令和6年度 評価報告書

令和7年 10月

## 石垣市地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価について

### 1 評価の目的

石垣市地域福祉計画・地域福祉活動計画の実施にあたり、市民の視点に立った施策の展開を確保し、専門的、客観的見地から、計画の着実な実行及び地域福祉の推進を目的として、石垣市地域福祉計画策定・推進委員会にて、計画の進行管理並びに評価を行う。

### 2 策定・推進委員会の役割

策定・推進委員会は、市及び社会福祉協議会の年度実績からその内容を検証し、計画の進行管理、施策の評価等を行うとともに、地域福祉の推進に関する意見・提言等を行う。

### 3 策定・推進委員会の構成

#### (1) 委員名簿

	氏名	所属等
委員長	長嶺 康茂	石垣市社会教育委員 議長
副委員長	内原 英政	石垣市福祉部 部長
委員	石垣 安志	石垣市社会福祉協議会 会長
委員	森永 用朗	石垣人権擁護委員協議会 会長
委員	佐伯 良子	沖縄県介護支援専門員協会八重山支部 支部長
委員	山里 世紀子	(一社)サポートセンターHOPE 代表理事
委員	崎原 喬	石垣市民生委員・児童委員協議会 会長
委員	富名腰 尚志	石垣市障がい者団体協議会 会長
委員	宜野座 安夫	石垣市自治公民館連絡協議会 会長
委員	波照間 光茂	かりゆし病院 地域医療連携室 室長
委員	砂川 長紀	石垣市老人クラブ連合会 会長
委員	真久田 絹代	石垣市女性連合会 会長
委員	大浜 雅史	石垣市青年団協議会 会長
委員	友利 青海	市民公募委員
委員	齊藤 弘美	市民公募委員
委員	黒木 さよ子	石垣市福祉部こども未来局 局長

#### (2) 委員構成

策定・推進委員については、学識経験者、福祉関係機関・団体の代表及び構成員、自治公民館関係者等で任期は2年となっている。

#### 4 策定・推進委員会開催

日時：令和7年10月28日（火） 午後2時から午後4時15分

場所：石垣市役所 福祉部会議室1・2

内容：令和5年度及び令和6年度の評価他

#### 5 評価の実施について

策定・推進委員会では、計画の個別施策ごとに設定された【評価指標と目標値】について、令和5年度及び令和6年度の実績から評価を実施した。

##### (1) 対象評価指標

7指標（全16指標）

##### (2) 評価の方法

評価にあたっては、令和5年度及び令和6年度の実績値を示した「地域福祉計画・地域福祉活動計画 評価シート」を活用する。事務局報告及び説明後、各委員で議論し、評価結果をまとめた。（全16指標の内、指標根拠が「市民意識調査」とある指標については、計画の最終年度予定の、市民アンケート調査の結果を踏まえた評価となることから、今回の評価では対象外とする。）

評価は、総合評価AからDの4段階で判断した。

評価項目：A 計画どおり進んでいる。
B 概ね計画どおり進んでいる。
C あまり進んでいない。
D 進んでいない。

#### 6 評価の結果

対象評価7指標のうち、「A」評価が4指標、「B」評価が0、「C」評価が2指標、「D」評価は1指標となりました。

表1：総括表

【基本理念】一人ひとりが輝いて、みんなで支え合う、幸せあふれるまちづくり					
基本目標	対象 指標数	評価区分			
		A	B	C	D
基本目標1 すべての人がつながる地域をつくる	3	2	-	1	-
基本目標2 共に支え、共に生きる地域をつくる	2	1	-	-	1
基本目標3 安心して暮らせる地域をつくる	2	1	-	1	-
合計	7	4	0	2	1

表 2：対象指標及び評価結果一覧

基本目標	基本施策	評価指標（単位）	所管課	評価
基本目標 1	地域の福祉を担う活動及び人材育成支援	民生委員・児童委員の充足率（％）	福祉総務課	C
		ボランティア団体登録数（団体数）	社協	A
		ボランティア登録人数（人）	社協	A
基本目標 2	支援を必要とする人への対応	専門相談員の配置（人）	社協	D
		点訳活動、声の広報、手話通訳を行っている活動団体数（団体数）	社協	A
基本目標 3	安全・安心な地域づくり	地域防災訓練を実施した地域（地域）	防災危機管理課	A
		災害時要援護者の個人情報取扱等に関する協定締結（団体数）		C

## 7 委員意見

### (1) 評価に関する意見

- 民生委員の活動がよくわからない。民生委員の認知度を上げながら担い手確保等をすすめてほしい。
- 赤い羽根共同募金によるボランティア団体への助成を行っているが、新規団体が増えているため、助成に伴う資金の確保が課題。
- 令和5年度は高校生ボランティアの応募が多かったが、令和6年度は令和5年度ほど集まらなかった。マッチングを円滑に行うためにも今後も継続してほしい。
- 専門相談員の配置は、相談のしやすさや相談内容のたらい回しをなくすためにも必要で、現状は他の職員や別の相談員が適宜対応しているようだが、2人配置目標のところ実績0人は努力が足りないと言わざるを得ない。財政的な理由があるかもしれないが、相談を予約制にして時間を短縮し、人件費を削るなど工夫はできると思うので、改善してほしい。
- 点訳活動や声の広報、手話通訳を行っている活動団体（単位）の考え方はどうか。実際に活動している団体はもっといると思う。
- 災害時要援護者の把握については、行政と地域の連携をもっと進めるべき。公助支援がどうなのかがよくわからない。